



きょうこ
山中共古 「吉居雜話」より



山中共古が、その見聞録「吉居雜話」に、明治末年の吉原とその周辺の民俗の様々な姿を記録したことは、7月5日発行の広報ふじで紹介しましたが、今回は、当時の年中行事、特に、お盆にまつわる行事を今泉に住む鈴木さんの話をまじえて紹介します。

お盆の行事あれこれ

吉原では、旧暦の7月1日から31日夜まで家々の戸口で、火を焚き(杉を細く割り小さく束ねたもの)先祖を祭りました。

八朔(旧暦の8月1日)の朝も火を焚きますが、この日は子ども達が大勢で各戸へ盆燈ろうの紙房をもらいにいき、次から次へ「燈ろうの房おくれ、おくれ」ともらい歩きます。

盆提灯を燈す家でも、提灯へ横木を渡し紙房をつけ、7月中は飾りにし、八朔には多数の子どもに与えるようにしました。(吉居雜話より)

地名の由来

伝法



キュウリの馬より ジェット機?



鈴木孝一郎さん
今泉7丁目 84歳

今泉では、盆釜といって、盆の15日の朝、近所の小学生4~5年の女の子達があつまり、各戸から米一合ほどをもらい、小豆や野菜を入れた「小豆飯」を炊き、みんなで会食をしてたね。

また、精霊棚は、真菰のござをひいて、その上にナスの牛、キュウリの馬をつくって先祖の靈を迎い入れたけど最近、こんなかざりも少なくなったようだね。

お盆の行事も昔ながらのやり方がだんだん減ってきたね。キュウリの馬をみて子ども達はジェット機の方が早いのにといったりして……。

明治22年3月1日伝法村・瓜島村・弥生村・香西村・永田村・依田原新田・弥生新田・香西新田の八ヶ村が合併して伝法村が誕生しました。伝法村は古くは久爾郷といわれていたので、かなり古い時代からの村のようですが、いつ頃からどういう理由で伝法といったのか明らかではありません。伝照寺の存在と関係があるかも。

郷土の 遺跡

古墳時代の農業

沖田遺跡出土の矢板

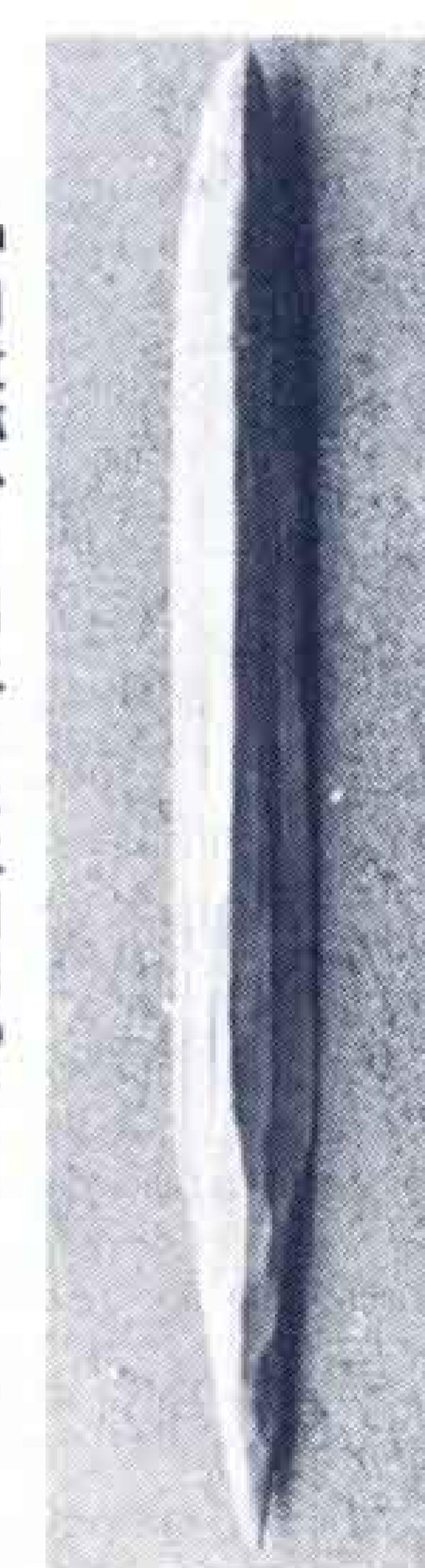
今泉の沖田遺跡からは、古墳時代の矢板と呼ばれる田の畔を作るために使ったクイが出土しました。

古墳時代の農業は、弥生時代のような自然を利用した農業ではなく、村人たちが人工的に田畠を拓いて行った農業でした。特に、水田ではこのような矢板を使い、多くの畔を作るなど大規模な工事が行われました。また、斜面や沼を水田に変え、荒地を開拓して畠を作り米や作物の増産に努めたのです。

収穫技術も穂刈りから根元刈りに変わり、収穫効率も良くなっています。

ところが、このように苦労して収穫した米や作物の大半は、地域の支配者に税として納めなければならなかったのです。

また、古墳築造などの労働力として動員されるなど華やかな支配階級に比べ、村人たちは重税と労働力の動員などに苦しんでいました。



沖田遺跡から出土した水田用のクイ

こちら編集室

今号は、レポーターの長島さん、青少年非行を考えるなど市民のみなさんから多くの原稿をいただきました。

今後も、市民参加による広報紙づくりをすすめていきます。